支部だより

中部支部公開気象講座報告

公開気象講座は，気象学に関する専門的かつ最新の知識を一般の方々に分かりやすく解説することを目的に開催されるもので，今年で13回目を数えます．今年度は，「地球温暖化」というテーマで８月26日（日）に名古屋大学野依記念学術交流館において，名古屋大学地球水循環研究センターとの共催で行われました．講演者（敬称略）と講演題目は以下の通りです．

１．神沢　博（名古屋大学）
「地球温暖化問題に関する科学アセスメントとしてのIPCC報告書について」
（概要）IPCCの活動，第４次報告書作成までの経過及びIPCC報告書が地球温暖化問題に関してどのような意味をもつのかについて解説した．

２．江守正多（国立環境研究所）
「地球温暖化の将来予測とその信頼性」
（概要）最新の気候モデルを用いた地球温暖化の将来予測について，その方法および主な結果を紹介するとともに，予測の信頼性をどのように受け止めるべきかを解説した．

３．大和田道雄（愛知教育大学）
「温暖化で名古屋の夏はどうなる？」
（概要）日本付近の夏型気圧配置の変容と，名古屋付近におけるその影響の実態をデータ解析から示し，温暖化に伴う地域気象への影響と今後の対策について解説した．

今回の公開気象講座は一般の人に関心の高いと思われる「地球温暖化」であり，またPRは会員へのダイレクトメールや新聞掲載などこれまでと同様に行ったにもかかわらず，参加者が約40名といつもの半分程度となりました．アンケートの結果では，ダイレクトメールを見て来てくださった方が５名（347名に送付）しか参加されず残念な結果となりました．８月最後の日曜日に開催したことなどが，原因の１つであると考えられます．今後，開催の日時を配慮することや，PRの仕方を時代に即したものに変更し，会員以外の方々にもより広くかつ効果的にPRしていく必要性を感じました．

しかし，講演者への質問は活発に行われ，参加者の「地球温暖化」という現象に対する関心の高さが感じられました．最後に紙面をお借りして，講演を快く引き受けてくださった講演者の皆様に感謝いたします．